

独立行政法人地域医療機能推進機構 JCHOさいたま北部医療センター

平成30年度 第1回 地域協議会 議事録

- 日 時：平成30年9月21日（金） 20:00～21:00
- 場 所：さいたま北部医療センター 大会議室
- 議 題：1. 新病院について
2. 収支状況の説明について
3. 当院への要望等について
- 出席者：松本雅彦（大宮医師会会長）、百村伸一（自治医科大学附属さいたま医療センター長）、田中孝之（さいたま市北区自治連合会会長）、青木龍哉（さいたま市保健福祉局理事）、黒田豊（院長）、小池信行（副院長）、菅原養厚（副院長）、中條洋（院長補佐）、安藤さとみ（総看護師長）、五井周一（事務長）、百本輝茂（事務長補佐）、工藤夕貴（地域連携室係長）、山根文晶（総務係長 記録）
- 欠席者：天辰優太（さいたま市保健福祉局地域医療課長）業務多忙のため
- 院長挨拶：

新病院オープンまで半年の重要な時期と考えており、建設は順調に進んでいる。予定通り12月引き渡し予定である。2月には、竣工式、内覧会を予定している。当初、移転と同時に電子カルテを導入予定で準備していたが、急遽紙カルテにて運用することになった。現在、紙カルテの保管スペース、運用をワーキンググループにて検討中である。想定外の事態も起きたが、おおむねハード面は順調と考えている。

ソフト面については、診療科の充実のため数名の医師を招聘した。特に菅原副院長は、循環器内科の常勤医として活躍いただいている。新病院では、心臓カテーテル検査も予定しており、更に充実した診療が期待できる。

4月より腎臓内科の常勤医に来ていただき、今までできなかった腎生検やシャントの手術も出来るようになった。それに伴い現在4台のベッドを月・水・金の2クール、今月からさらに火・木・土の2クール分を増やした。7月には常勤の麻酔科医にも来ていただき、手術及び術後のフォローも充実した。9月には今までいなかった常勤の婦人科医に来ていただいている。さいたま市との約束であった産科の開設までは至らないが、新病院では婦人科手術に向けて計画中である。更に自治医科大学に要

請し産科を考えているが、実現は難しいところではある。

当院の充実した診療には医師会の協力が欠かせない。新病院において医師会の先生方が必要と考える患者をすぐに入院できるような開放病棟を考えている。重症な患者は、自治医大が超急性期病院として担当し、症状が落ち着いたら急性期病院である当院が担当し、在宅ケアに向けて考えてくという役割分担を行っていきたいので、今後とも宜しくお願ひしたい。

- 委員の紹介
- 管理職の紹介
- 議長の選出：百村委員

- 議題

- 1. 新病院について

- ・ 新病院の概況について（五井事務長）

別紙のとおり

質問等

—青木理事：移転時に4階・5階病棟のみオープンする経緯と、フルオープンの予定時期が知りたい。また、電子カルテの導入は新病院移転時期の方が効率的だと思われるが、その理由は？

—院長：新病院は4階5階病棟で112床のみオープンする。新病院では、循環器内科常勤医師の採用等により増床を見込めるが、この他新たに常勤整形外科医の採用による増床を見込んでいたが、派遣を要請している大学が諸事情により派遣の目途が未だ立たず常勤整形外科医が確保できていないため、当面2病棟での運用とした。しかし、派遣を要請している大学は派遣の約束をしてくれており、整形外科常勤医の派遣が実現すれば3病棟での運用となる。もちろん新病院開院後病床が満床に近い状態となれば、整形外科常勤医の採用を待たずに3病棟での運用となることもありえる。

電子カルテの導入に関しては、当初新病院開院と同時に稼働させるべく、入札の準備まで進めていたが、本部より導入延期の指示があった。費用削減が理由の1つだと思われるが、当院としては、本部の方針に従わざるを得ない。

—青木理事：新病院の開設に伴う看護師の確保は？

—院長：当面は、112床での運用となる為、看護師10名程度余剰となり、JCHO

関連病院に外部研修に出て勉強してもらいフルオープン時に戻って来てもらう。
その時は、さらに看護師の採用が必要となるかもしれない。

—松本会長：電子カルテが延期ということで、今までのシステムと基本的に同じ
と考えて宜しいか？

—院長：たとえばオーダリングシステムなどは、機器はそのまま使うが、バー
ジョンアップを行う。

—松本会長：医師会の先生の間でも眼科の機械は古いとかいう話を良く聞くの
だが、新しい機械に変更できないのか？

—院長：休日急患センターではお世話になる場所ですので、具体的な要望があ
れば検討する。

—田中会長：医療器械は新しくならないのか？ステラタウンと病院の2階を繋ぐ
ブリッジ工事の進捗状況は？地域の健康相談を引き続きお願いしたい。

—院長：1つ目について、例えばMRIについては、現状のものを移設してバー
ジョンアップを行うので新しくなる。CT、心臓カテーテル、内視鏡は、新しいも
のに変える。新しくするものは更新しつつ使えるものは使うということ。

2点目は、さいたま市と管理の交渉が難航し予定が遅れ来年8月完成予定。

3点目の公開講座は、先ほどのブリッジが完成すれば外から大会議室へのアク
セスが容易になるので、病院内での実施も可能となる。従来とおり、プラザノー
スや公民館での健康相談や公開講座も引き続き実施したい。

—百村センター長：心臓カテーテル室について、どの程度できるか？

—菅原副院長：多目的血管造影装置（バイプレーン）まで対応できるようにした
ので、一般的な心臓カテーテルや看護師の技量によるが経皮的冠動脈形成術とカ
テーテル治療（PCI）は可能。より安全に実施するため血管内超音波も調達した
い。不整脈に関して、アブレーションを行う場合は、基本的な発作性上室性頻脈、
心房粗動までは対応できる。冠動脈に関しては、ペースメーカー手術で対応で
きる。

—百村センター長：ペースメーカーはカテーテル室と手術室どちらで行うのか？

—菅原副院長：手術室の隣が心カテ室なので、どちらでも対応できるよう準備を

している。

—百村センター長：新病院の透析室は4床のままか？

—院長：最大22床だが、始めは10床でスタートする。今の状態であれば、すぐに埋まりそうである。1年後には22床オープンになると思われる。

—百村センター長：病床の機能はどうなるか？

—院長：一般急性期が、4階54床と6階の外科系51床。5階の地域包括ケア病棟が58床である。

—松本会長：北区における災害時の役割は？

—院長：当院は、災害拠点病院ではないが、災害時の対応のマニュアル策定準備は進めている。

2. 収支状況の説明について（百本事務長補佐）

経常収支は、平成27・28年度と赤字であったが、平成29年度は6,100万円の黒字となった。黒字の要因として、入院収益の増加と費用の削減が挙げられる。入院患者数の増加は、各医師の努力に加えて、年度途中で外科医師を2名増員、自治医科大学から腎臓内科の医師を1名派遣してもらい、透析患者数が増えていることが大きい。ただ、健康管理センターを業務委託にした影響で受診者が減り、収益が減少。今後の課題である。

外来患者については、一人当りの単価が上がっているが、患者数は減っている。

質問等

—百村センター長：外来患者数が減ってきた理由は？

—院長：当院の規模に比べて、外来患者数が多すぎるので、なるべく医師会の先生にお願いできる患者は、パソコン上で見られる医療機関マップ等を利用して逆紹介するよう指示しているためである。

—百村センター長：今年度末は、黒字の予定か？

—院長：現在黒字を維持しているが、今年度末は12月に新病院の引き渡しが行われ、同時に減価償却が始まるため残念ながら赤字となる見通しである。

—松本会長：病床利用率は？

—院長：76%程度であり、近隣病院は85%~90%はあるので、当院は急性期病院としてまだまだ低い。

—松本会長：肺炎の患者を入院依頼しようと連絡すると、まず FAX で紹介状を送り、内容を見て入院を決めると言われたことがある。なかなか返事がもらえず、結局断られたケースがあった。

—菅原副院長：おそらく基礎疾患に糖尿病のある患者だったのかもしれない。

—院長：10月から自治医科大から糖尿病の医師も来ることになっている。糖尿病のある患者の受け入れもスムーズになると思う。

3. 当院への要望について

—松本会長：当直の医師をできれば院内の医師にお願いできればスムーズだと思う。

—院長：今まで内科の医師が少なかったが、徐々に内科医師の数も増えてきたので、他科の医師と同時に当直を行えれば安心である。

—青木理事：産科の件だが、市立病院ではセミオープン方式といって産科健診はそれぞれの病院で行っていただき、分娩は市立病院で行うという役割分担を行っている。検討いただければと思う。

—院長：ありがたい話ではありますが、現在産婦人科医1名では難しい。まずは、婦人科から始め、自治医大と協力を進めながら産科開設を目指したい。

次回開催について

—百本事務長補佐：新病院開院の来年3月開催予定である。

日程調整後、改めてお知らせいたします。

以上